

令和7年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育 目標に ついて	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	理念を意識しながらの活動にはなってきた。職員自身がまだ楽しめていない様子もある。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切に保育をしている	A	A	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	B	
保育 について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	A	年数も長くなっている職員が増えつつあるので、活動(保育)については、現状のままで良いと考える。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている			
	(3)素材・用具を適切に使用している	A	A	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	A	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	A	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	A	
食育 について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	C	ドーナツ提供を喜んでいる。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている			
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役員 研修 分 担 構 成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	A	職員の役割分担を意識的に行えた1年だった。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	C	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	A	

		前年評価	今年評価	
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	B	保護者と馴れ合いになり、言葉づかいが丁寧でなくなる職員もいた。言葉使いに関しては、今後も課題としたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	A	A	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	A	A	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっぷノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	A	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	B	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	A	A	
開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	A	A	小学校とは連携が取れすぎるほどあり、終盤は小学校からこちらに対して頼りすぎの場面もみられた。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	A	
子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	B	A	今後の課題である。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	A	A	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	C	C	

総合的な現状と課題

活動面や内容については特に問題なく年度を終了できた。
 職員の入れ替わりの激しい年となってしまう、職員にも苦勞を掛ける月もあった。
 また、パート職員の指導不足も感じられた。統括、リーダーが、職員育成にしっかり力をいれられるようにしていくことが、今後の課題となる。また、年数の浅い職員と長くなった職員のバランスの取り方も今後の課題となっていく。研修などを増やして、課題解決に臨んでいきたい。

園名 協愛福祉会 児童クラブ 氏名 長友 里子